

## 司祭団から

### 「マリア様、助けて！」

主任司祭 松本 勝男

五月に母が帰天して、早二か月が過ぎようとしています。母との思い出を振り返ってみると、母は本当に信仰深い人間だったと思います。

今回、教会報の編集子に寄稿の依頼を受けて改めて思い出したことは、「苦しむ時には『マリア様、助けて！』と祈りなさい」という母の教えです。たぶん、小学校の高学年、年に一、二回、母に連れられて教会に通うようになってからのことだったと思います。

今でこそ、病気で寝込むようなことはほとんどない私ですが、実をいうと、小学生の頃は病弱で、学校を休むことが多かったのです。そんな小学生のある時、何の病気が忘れてしまいましたが、苦し

くて痛くて眠れず、ヒュー泣いていた私に、『マリア様、助けて！』と祈りなさい」と母が言ったのです。たぶん、泣きながらそう祈ったと思います。私たち人間の苦しみや悲しみをマリア様はよく理解していて、その苦しみや悲しみを和らげてくださるように、神様に取り次いでくださるのだということを、あの時に身をもって教えられたのではないかと思います。尤も「のど元過ぎると」で、まだ小学生だった私には、そのことを深く考えるゆとりはなかったわけです。

それはともかく、母のカトリック信者としての人生も「マリア様、助けて！」と祈りながら、様々な困難を乗り越えた人生だったのではないかという気がしてなりません。認知症が進んで寝たきりの状態になった最後の二年四か月余りも、

母が暴れたり喚き立てたりして、病院の人たちに迷惑をかけることがなかったのは、「マリア様、助けて！」の信仰が体に染みついていていたおかげではないのかというのは、「親の欲目」ならぬ「息子の欲目」でしょうか？

八月一五日は聖母の被昇天のお祝い日です。神の母としてこの世での務めを全うされたマリア様が天に昇られ、今度は、私たち一人ひとりのお母さんとして、天から私たちを見守ってくださいることをお祝いします。マリア様が大好きで、永遠の命に強い憧れを持っていた母は、今はきつとマリア様のおそばで喜びに包まれているのではないか；息子の独りよがりですが、そう信じることによって、また司祭として頑張りが続いていく力が湧いてくるような気がします。



# 私の保護聖人

## 聖ロベルト

ロベルト・ソリス

「聖人たちは生ける者の保護者であり仲介人である。」私の母のこの単純な信仰しか、母がなぜ聖人暦に基づいて自分の子供たちを名づけたかの理由として思い当たりません。9月18日生まれの私の一番上の兄は、同日の聖リカルドにちなんで名づけられました。もう一人の兄は5月22日生まれで、リトという名前です。ただ私の場合は、特殊でした。両親が意図したのかどうか分かりませんが、私は長兄と誕生日が同じです。親たちは、2人の息子たちに同じ名前を付けたくなかったのです。私の名前は実際の誕生日の前日に記念する聖人から付けられました。その聖人が、聖ロベルト・ベラルミノ司教教会博士です。



聖ロベルトは、1542年10月4日にイタリアのトスカーナ州、モンテプルチャーノで生まれました。1560年、イエズス会に入会し、1570年に叙階されました。聖ロベルトは、神学の教授として活躍し、1599年に枢機卿に任命されました。宗教改革時代において、彼は枢機卿かつ著名な神学者として、プロテスタントの教義に対立する者として知られていました。カトリック教会は、体系的な神学、聖トマス・アクイナス、

聖アウグスチヌスによる神の恵みと人間の自由意志に関する聖人の深遠な知識と雄弁さによって、プロテスタント主義からの激しい攻撃から守られたのでした。聖ロベルトは、1621年9月17日に帰天し、現在ではカテキスタや洗礼志願者の保護者となっています。

偉大な神学者であり、教会博士であるこの聖人を保護者としていただいたのは私にとって大きな恵みであると同時に、光栄に思っています。特に私が自分の信仰を疑い、人生の意味について思い悩んだ時期に、この聖人の取り次ぎの力を強く感じました。なぜなら人生を振り返ると、自分という存在の究極的な意味を追求する迷路のような歩みだったからです。聖ロベルトの執り成しのおかげで、究極的な真理を見つけ、私の存在の根源に対し自分自身を委ねることができたと思っています。ですので、私は、自分の名前を呼ばれるたびに、私のいのちが神からの無償の贈り物であることと、私のために祈っていただける聖人がいることを思い起こさせてもらうのです。聖ロベルト、私たちのためにお祈りください。

聖霊の息吹

韓国からこんにちは②

互いに

分かち合う恵み

聖霊奉侍布教修道女会

町村 治美

吉祥寺教会の皆さま、お元気にお過ごしでしょうか。お陰様で私も韓国・ソウルに来て半年余りが過ぎ、生活もだいぶ慣れてきたところです。この半年、ことば、食事、文化など想像以上に韓国と日本の共通点を多く感じてきました。そのような中で最初に違いを感じたことといえば、街の教会の数の多さです。ソウル市内では住宅街にも駅近くにも様々な教会の案内を見つけることができます。韓国の柔らかいタッチのイエス様のイラストや、夜に十字架のネオンがいくつも光っているのをご存知の方も多いのではないでしょうか。

現在私は韓国語の勉強のために、政府が運営している外国人センターに通って

いるのですが、実はそのセンターもプロテストントの団体が母体です。またプライベートレッスンの先生も、働きながら牧師になるために活動なさっている方です。この先生は、将来的に、牧師が少ない日本の教会で宣教をする夢を持っており、流暢な日本語を勉強されています。またその先生のご縁で、宣教の為のカフェを経営している牧師の方とも知り合いになりました。このオーナーの牧師は日本に滞在した経験があり、日本人を対象に韓国語やギターを教えるなど日韓交流のために尽力されてきました。カフェをオープンした目的の一つはそうした活動を積極的に行うためだとか。彼らの宣教の熱意と地道な活動に心が動かされます。カフェといえば吉祥寺教会で青年会若葉に関わっていた頃に、韓国からの青年も含めいろいろな方を交えて、勉強会とその後にお茶をして、ほっと分かち合いの時間を持つのが活動のささやかな原点だったように思います。信仰に導いてくれた亡き恩師をはじめ、教会でもよくコーヒーをいただいたのを思い出します。心の交流が始まるのは、わたしたちの体

をほっと一休みさせた後かもしれないね。

韓国に住んで、いただいている様々な出会いに感謝します。まだまだ知らない韓国に出会っていききたいですし、いただいている出会いも大切にしながら、地道に交流を深めていきたいです。大変なこともあるけれど、周りの人と恵みを分かち合っていく心の広さを韓国で感じることも多いです。そういったことをもつと学んでいけたらと思います。皆様もどうぞお元気で。韓国から祈りを込めて。それでは、また。



## 別の村での体験

神言修道会神学生

傍島義雄そばしまよしお

皆さん、お元気でしょうか。私は三月二〇日から四月二十一日の復活の主日にかけて、別の村での生活を体験させていただきました。この村には電気が通っていない、集落によっては近くに井戸があり、それらがあるのとないのでは、人々の生活ぶりが随分違うことを実感しました。今回はこのルブセ村での体験を報告させていただきます。

ルブセ村は、もともとはダンベ語の人々の地域なのですが、エウエ語の人々もかなり多く住んでいて、大概の人々が両方の言語を理解することができま。私が滞在したのはエウエ語の人々の集落であり、それまで少しだけ身につけてきたダンベ語に加えて、エウエ語もほんの少しだけ教えてもらいました。

この村の教会においては、元気のある

青年たちが活発に動いていたことが印象に残っています。礼拝の中では、歌って踊って太鼓をたたいての大盛り上がりでした。皆さんにぜひ知っておいていただきたいのですが、日曜日に八十人から百人集まるようなこの教会であっても、私が滞在した一カ月の間に司祭が来てミサが執り行われたのは、聖木曜日の一回だけなのです。他の日曜日、聖金曜日、復活徹夜祭、復活の主日などにおいては、神学生の私が「みことばの祭儀」を指揮したのです。私がいなければ、カテキストと呼ばれる教理指導者たちが祭儀を指揮したことでしよう。ガーナには、このような「アウトステーション」と呼ばれる、司祭が常駐していない教会が数多く存在します。

ところで、片言の英会話能力で、どのように私が礼拝を切り盛りするのか不思議に思われるかもしれませんが、読み書きに関してはもう少しましなので、どうにかなっています。そして、私が英語で読み上げる説教をカテキストの人たちが上手に解釈し、一文ごとに現地語に翻訳してくれま。私がこれまでガーナで体

験してきたミサや説教は長いものが多かったので、私の短い説教では人々は満足いかないのではないかと心配になり、一度、説教の最後に、「短すぎますか」と尋ねたことがあります。笑いが起こりました。どうやら、必ずしもみんなが長い儀式や説教が好きなのではないようです。聖書や教会の教えについてはもちろんですが、その土地の習慣や思考傾向について、宣教師は学ぶ必要があるのだと、自分で説教を準備するようになって強く感じます。また、聖霊の助けを願う求める必要性も感じます。

今また別の町で暮らしながらこの原稿を書いている私ですが、この八月に日本に帰り、名古屋で神学の勉強を続けることにしました。引き続き、私たち神学生のため、宣教師のため、どうぞお祈りください。





「第九回」

信仰の揺りかごを訪ねる

私が自分の父の家にいるのは当たり前だということを、知らなかったのですか

(ルカ2:49)。

夢が叶いました！

これはすべての成功した夢想家が、自分の夢が実現する瞬間に言う言葉です。

私は、「スペイン」という単語を最初に聞いた時、どういうわけか、いつの日かスペインを訪ねることに興味がわきました。それは、スペイン人がフィリピンを征服し、アジアで唯一のカトリック国家にしたからなのか、それとも、彼らのおかげで多くの人々に霊的な信仰と文化を与えられたからなのか、あるいは、約300年間、彼らがフィリピン人を支配したからなのか、とその理由を思い巡らしました。

私の幼年期の頃からはじまった夢が実際に叶うまでに30年かかりました。そして、これはまさに、故郷から離れた場所

でふるさとに出会った体験でした。私の信仰の揺りかごはどこにあるのかを体験するため、神の霊が私をそこへ導いてくれました。私は、フィリピン人と日本人のキリスト者の信仰の源泉を探検する一つの方法として、巡礼に参加しました。

自分の信仰を深める旅は、自分の失われた魂の一部を探し求めたいと思った時に始まります。特に、たとえば、聖人の村に足を踏み入れる時、そこに何があるのか、信仰があるのかを探し求めます。それは単に、旅行の目的として、何らかの満足を得るために、ある場所から別の場所へと移動することなどではありません。巡礼とは、自分が証している主と、自分への主のメッセージを探し求めることです。それは、自分が海外に行くための十分な時間を持つているかどうかとか、お土産を買うこととは無関係です。

巡礼は、自分が信じていることに敬意を払うことによつて、自分の信仰を表現することであり、そのことは、自分が体験している生活の試練の中で、主を認識するために役立ちます。私たちには、内なる平和を求めるといふ異なった動機も

存在するかもしれないませんが、確実なことは、私達は、信じるという行為において、理解できない状況下にあつても、理解を超えたことがあると信じていることです。それは、神祕が存在するということや、自分が巡礼の旅の中で本当に信仰に目覚めている時に何かを経験することではないかと思ひます。

確かに、巡礼における私の経験は、信仰に対する私の従来の見方を変えました。私が今まで気づいていなかったことを気づかされましたが、これは私が楽しく巡礼の旅をしたからではありません。巡礼によつて、私の信仰の源である神様は、主が私の信仰を強化するために、宣教師という別の道具を派遣されており、それがどこから来たのかを認識しました。巡礼に同行した日本人の信徒の皆さんも同



じく自分の信仰の源に気付いていなかったかもしれないが、しかし、私は、最初の宣教師が信仰を蒔いた場所を歩いていた時、単に驚きの体験だけでなく、お金で得られること以上の価値あることを経験しました。

自分が巡礼した場所を自慢するのではなく、その巡礼を通して得られた経験と思い出によって、自分の信仰を強め続けるべきです。巡礼とは、ただ一度か二度の体験かもしれませんが、主との、忠実に親密な交わりを深める極めて貴重な機会となるでしょう。私は、一生に一度のことかもしれません、自分の人生に奇跡が起きた場所と、聖人が奇跡を行ってくれる場所への巡礼の旅に行ってきました。そして、私、神のみが知っておられる、私達には不可能な方法で、聖人となることを切望しています。



## お知らせ ~ Information ~

### ~ 2019 年度武蔵野南宣教協力体平和旬間イベント平和祈願ミサについて ~

武蔵野南宣教協力体では、8月12日（月・祝）10時より、平和旬間イベントを吉祥寺教会において実施します。多くの方々の参加をお待ちしております。

テーマ：平和を実現する人々は幸い

10時～：講演会（大聖堂）「『子どもが生きる力』を守る ～子どもの声を社会へ～」  
NPO法人こどもの里理事長 荘保共子氏

11時半～：平和祈願ミサ（大聖堂） 菊地大司教様・宣教協力体司祭団共同司式

12時半～：昼食・交流会（大ホール）



### ~ 2019 年度みんなの広場について ~



2019年度みんなの広場開催への準備が始まります。出店を予定されている会は、開催までに行われます「みな広実行委員会」への出席をお願いいたします。

#### ■事務室受付時間（通常）■

日曜日 9:00～18:00

火～土曜日 9:30～18:30

※定休日：月曜日・祝日

※8月中は日曜日 9:00～17:00

火～土曜日 9:30～17:30

#### ■売店営業時間（通常）■

火～日曜日 10:00～18:00

※定休日：月曜日・祝日

※8月中は日曜日10:00～17:00

火～土曜日10:00～17:30

#### ■ミサ時間案内（通常）■

主日：7時・9時（日曜学校）

10時30分・12時・18時

\*第1日曜16時（英語）

\*第3日曜16時（タガログ語）

平日：7時/金曜：7時・12時

土曜：7時・16時（主日のミサ）

※8月中は主日12時ミサはありません

（上記受付時間、売店営業時間は変る場合があります）